

1 教育目標

- 自主・自律 自ら学びよくわかるまで努力する生徒
- 敬 愛 豊かな心と思いやりのある生徒
- 協 働 進んで働き協力する喜びを知る生徒

2 目指す学校像 明日の登校を楽しみにできる学校

- (1)「笑顔」と「あいさつ」に満ちあふれた学校
- (2)「生きる力」を身に付け、可能性を伸ばし将来の夢を育める学校
- (3)コミュニティ・スクールとして、地域・保護者に信頼され、連携して共に歩むことができる学校

3 目指す生徒像

- (1)真実を愛し、真剣に学び、諸活動に全力を尽くす生徒（全力投球）
- (2)責任感をもち、正しく判断し、行動する力をもつ生徒（自主・自律）
- (3)豊かな心を持ち人の心が分かる思いやりのある生徒（敬愛）
- (4)協力・社会貢献することに喜びをもてる生徒（協働）
- (5)健康な生活を送るために、規則正しい生活習慣を身に付けた生徒

3 中期的目標

各教科・領域等で横断的に、「課題発見力」「課題解決力」「協働する力」「感情のコントロール力」等の**非認知スキルを習得**させて、交渉力、調停力、胆力、共感力、想像力など汎用性の高い知的能力を育み、激しく変化する社会を「**生き抜くための力**」を身に付けさせる。

4 2025年度の目標（短期的目標）

- (1) 人権尊重の精神に基づく教育活動を実施し、より高い人権意識を育成するとともに、いじめのない笑顔あふれる学校を目指す。
- (2) ICT 機器を効果的に活用し、「確かな学力」と「非認知スキル」を身に付けさせ、社会の持続的な発展をけん引する人材を育成する。
- (3) 創意工夫に満ち、個別最適な学びにつながる魅力あふれる授業を実践し、基礎的・基本的な学力と発展的な学力を育成する。
- (4) 特別支援教育の視点に基づいた教育活動を推進するとともに、「特別の教科 道徳」の授業を充実により、豊かな心の涵養を推進する。
- (5) 保健体育の授業、体育的行事、部活動、昼休みの活動等を通して、体力向上を図るとともに、熱中症等防止に努め、事故ゼロを目指す。
- (6) 学校と保護者及び地域との連携により、生徒の健全育成を図る。また部活動の地域移行に向けた取組を推進する。
- (7) 教職員全員が教育公務員としての自覚をもち、服務事故を起こさないとともに、学校予算や学校徴収金の意義と役割を自覚し、有効活用していく。

6 2025年度の具体的取組目標

- (1) 学習指導
 - ①プロ集団による組織的な分かる授業・楽しい授業の実践

ア-ICT を有効活用した授業研究と実践を行い、生徒の意欲喚起を図るとともに、全教員が日常的に情報を共有し、より良い授業を目指す。

イ-全教員がプロ意識をもち、資質向上を図るとともに、継続的に研究・研修を行う。

ウ-「協同的探究学習」「体験的な学習」「問題解決的な学習」の実践、思考・判断、表現（プレゼンテーション）力を伸ばす授業の研究と実践を行う。

エ-読書活動の充実と英語教育の推進を図る。

②指導方法・指導内容の工夫と改善

ア-学力の確実な定着を図るために、モジュール授業、反復学習やスモールステップ、少人数指導等による、個に応じたきめ細やかで工夫した授業を展開する。

イ-家庭学習の習慣化を図るために、スケジュール管理能力を育てる。

ウ-補充学習の機会（長期休業中・放課後・面談期間・定期考査前）の充実を図る。

③「協働的探究学習」や「プレゼンテーションや新聞等への投稿など意見発表」等の活動を充実させ、学びに向かう力、考える力、読み解く力、表現力を身に付けさせる。

④信頼される適正な評価を実施する。

（２）生活指導「豊かな人間性の育成」

○いじめ、不登校の根絶を目指し、心豊かで規律ある生徒の育成を継続する。

①あらゆる機会を通じて自他の生命を尊重する意識を育てる。

②意図的・計画的に思いやりの心を育て、いじめやいじめにつながる行動を抑止する。

ア-「町田市いじめ防止基本方針」に基づき、組織的にいじめの未然防止・早期発見・早期対応を行い、早期解消をめざす。

イ-道徳教育・人権教育等を充実させる。あらゆる取組を通じて「他を思いやる気持ち」と「いじめを許さない意思」「感情のコントロール」を育成する。

ウ-様々な体験活動を充実させ、成功体験及び失敗体験から、自己に対する気付きを促し、「自己肯定感・有用感」を高めさせる。

（３）特別支援教育等の充実

①アンケートと教育相談を充実させ、組織的かつ即時的な生徒支援を図る。

②全教員が特別支援教育に関する理解を深めるとともに、校内委員会とスクールカウンセラーの活用を図る。これにより特別支援を要する生徒、不登校やその傾向にある生徒に対して、個に応じた指導、生活や学習上の困難の克服・改善に向けた指導・支援を行う。

③家庭及びＳＣ・ＳＳＷ他、関係諸機関との連携を図り、適切な支援や対応を行う。

（４）キャリア教育の充実

①１年次より系統的な指導を行い、体験的な学習を重視し、望ましい職業観や勤労観を育成するとともに、VUCA の時代を意識したキャリア教育を行う。

②目的に向かって努力し、妥協したりあきらめたりさせない進路指導を行う。